

## 第33回読書感想画三重県コンクール 最優秀賞

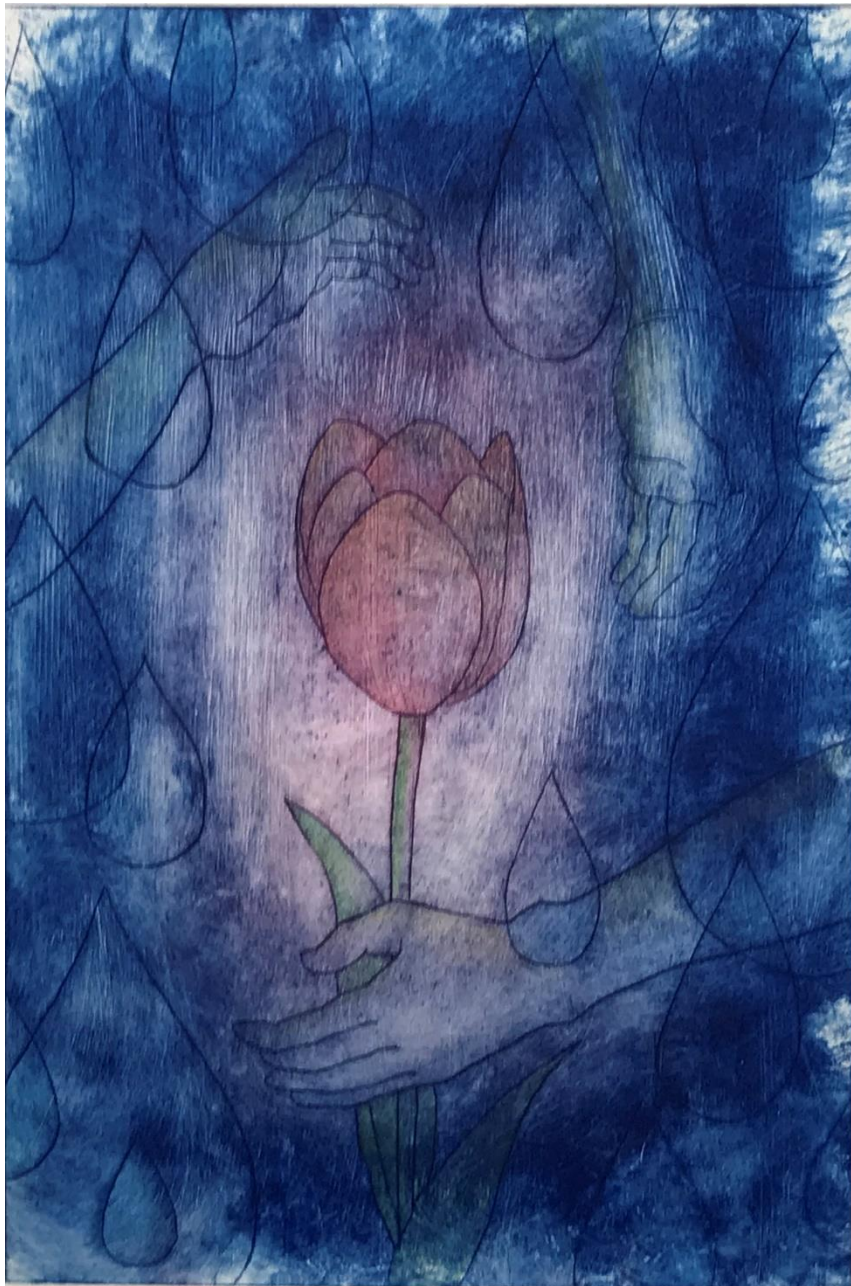
1年 田中 和花 (津市立橋北中学校)

### 包み込む

<作品について>

『武器ではなく命の水を送りたい 中村哲医師の生き方』 宮田律著 平凡社

この本の題名にもあるように、武器ではなくかんがい事業などの人道支援でアフガニスタンやパキスタンをより良くしようという中村哲氏の考え方がとても印象に残りました。また、戦争の恐ろしさや人々が平和に日々をおくることができることの尊さを改めて実感しました。この作品は、中村さんが行ってきた人道支援のような、人の優しさや慈愛の大切さを伝えたいと思って描きました。版画の雰囲気を活かした彩色が難しかったです。



# 第33回読書感想画三重県コンクール 最優秀賞

1年 楠 れいか (三重大学教育学部附属中学校)

## アーティチョークとモリブ

<作品について>

『世界とキレル』 佐藤まどか著 あすなろ書房

モリブが自分のことをアーティチョークにたとえたのを、そのまま絵にしました。初め、モリブはいろいろなことに不満をぶつけていたのが、脱走が失敗した後から徐々におだやかになって、物語の最後には依存していたSNSからもはなれ、力強くなっていきました。そんなモリブの花はもう咲いているのだと私は思い、おだやかな表情で、自分の花を咲かせているモリブをメインに本の世界観を描きました。





# 第33回読書感想画三重県コンクール 優秀賞

2年 大川 楓香 (三重大学教育学部附属中学校)

## 再会

<作品について>

『きみのいた森で』 ピート・ハウトマン著 こだまともこ訳 評論社

エリーとスチューイが別の世界に分かれてしまったものの、最後に再会した場面に嬉しく思いました。なので、再会した二人の喜びを表現したいと思いこの絵を描きました。この絵を描くにあたって私は世界観を表現するのに苦心しました。私はこの物語が不思議なファンタジーのように感じました。その世界観を森で表現しつつ、また二人の喜びや思い出を表現するのが難しかったです。だからこそその面はとてこだわって描きました。



# 第33回読書感想画三重県コンクール 努力賞

1年 西塔 美玲 (津市立橋北中学校)

## 命の面影

<作品について>

『大切な人は今もそこにいる 響き合う賢治と東日本大震災』 千葉望著 理論社

震災や病気で家族や友人を失うと、死者は生きている人の心の中に根を張り、生きているのだと感じました。しかし、生きる場所が違うので、再び会える日が来ないことにも気づきました。この絵は、電車に乗り現実世界を生きる生者と、窓に隔てられ、届きそうで届かない心の中という世界に行ってしまった死者を表しています。震災の瓦礫を細かく描くのに苦労しました。現実世界は、はっきりと、心の世界はぼんやり描き、異なりを強調しました。

